



罹災証明書

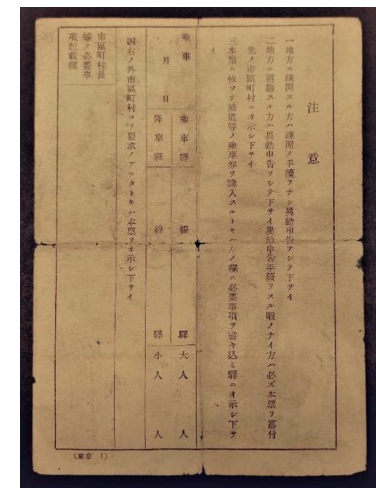
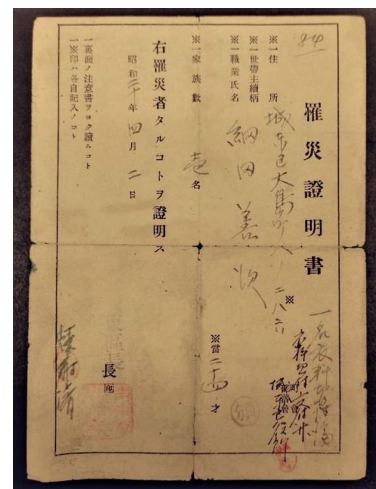
飯能市立博物館 学芸職員 金澤 花陽乃

昭和 20 (1945) 年 3 月 10 日、アメリカ軍の B29 爆撃機による空襲で、東京は甚大な被害を受けました。東京大空襲（下町大空襲）です。たった一晩で本所区、深川区、城東区の全域、日本橋、浅草区、神田区の大部分、下谷区東部、荒川区南部、向島区南部、江戸川区の西側など、主に JR 山手線東側から荒川までの地域の大部分が焼け野原となりました。この空襲で 10 万人の方が亡くなり、100 万人以上が罹災したと言われています。

今月は、この東京大空襲（下町大空襲）に際して発行された罹災証明書をご紹介します。

罹災証明書とは、空襲で罹災し、家や財産などを失ったことを証明する文書です。様式は発行元によって多少異なりますが、表面に証明を受ける人物の氏名や住所、家族構成を記入するのはほぼ共通であったようです。これを持っていることで、食料品などの物資の救援を受けたり、鉄道の切符を優先的に発行してもらったりすることができました。ここで紹介しているものは印刷ですが、罹災人数が多かったり発行元の準備が整わなかったりして証明書の発行が追いつかない場合は、ガリ版刷りや手書きのものもあったそうです。

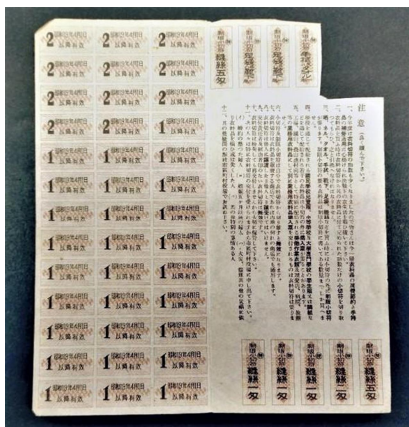
この証明書は城東区役所（城東区は現在の東京都江東区）が発行したもので、左下に「城東区長」の印と担当者と思われる人物の氏名及び印が見られます。受け取り主である細田善次さんは、城東区大島町にあった横山工業株式会社（現在の川崎重工業株式会社）の第二工場でボイラーマンとして働いているときに、東京大空襲に遭いました。当時細田さんは 24 歳、一人で城東区に寄宿をしていました。



罹災証明書(細田善次家文書 6)
表面(上)には発行元である城東区役所や受取人氏名などが見られる。
裏面(下)には注意書きや切符購入時に記入する枠がある。

証明書の右下には「衣料切符交付済 城東区役所（印）」の記載があり、細田さんがこの証明書によって城東区から衣料切符を受け取ったことがわかります。また、裏面には証明書を使って鉄道を利用するときに路線や乗降駅を記入する欄がありますが、こちらは空欄となっています。

細田さんは空襲で焼け出されたものの、幸いにも無事であったようで、2 か月後の 5 月には再び横山工業株式会社に徴用され、空襲を受ける前と同じく第二工場で働いたようです。



衣料切符(細田善次家文書 8)
細田善次氏が罹災証明書を使って受け取ったと思われる衣料切符。